景況レポート

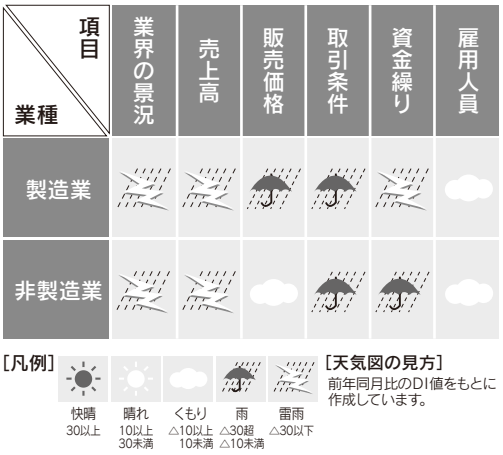
（2月分・情報連絡員80名）

景況DI値が3年7ヶ月ぶりに −40台まで悪化　～回復感見られず～

【概況（全体）】2月分の県内景況は、全体の景況DI値が−42.5となり、前月調査と比較して3.8ポイント下回った。

県内景況は、前月に引き続き燃料価格の下落により運輸業では業況がやや改善したが、原材料価格の高止まりにより、業界全体のDI値は平成23年7月調査以来、3年7ヶ月ぶりの−40台となった。

なお、依然として、需要の低迷や個人消費の低迷が続いており、県内景況に回復感が見られていない状況となっている。　（回答数：80名回収率：100%）



【概況（製造業）】製造業の景況DI値は−53.2となり、3ヶ月連続の−50台となった。食料品、印刷、一般機器では、原材料価格の高止まりの影響により前年同月比で収益状況が悪化している。

また、木材・木製品（一般製材）では、新築住宅戸数が減少傾向となっており、市況が好転する兆しは見られていない。

【概況（非製造業）】非製造業の景況DI値は−35.5となり、2ヶ月連続で悪化した。運輸業では、燃料価格の下落により前年同月比で収益が増加している。

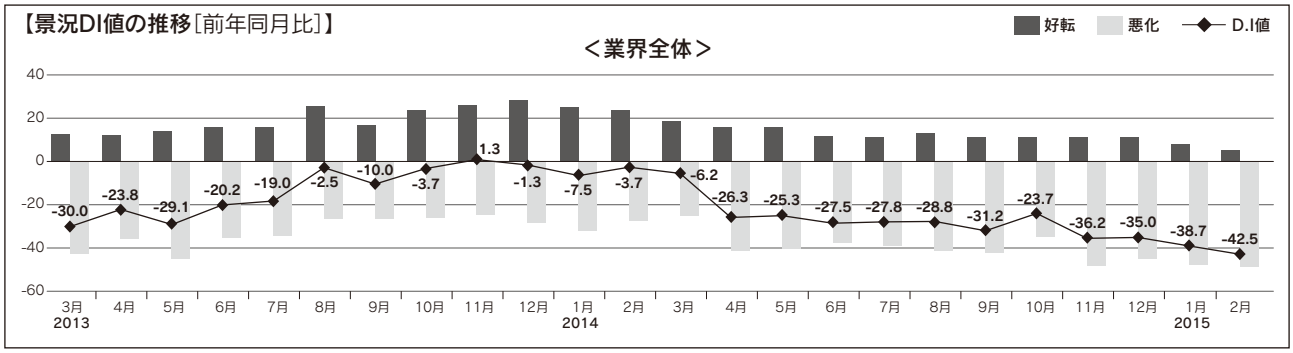
一方、建設業では、新規受注工事が少ないため、先行きが不透明な状況となっている。

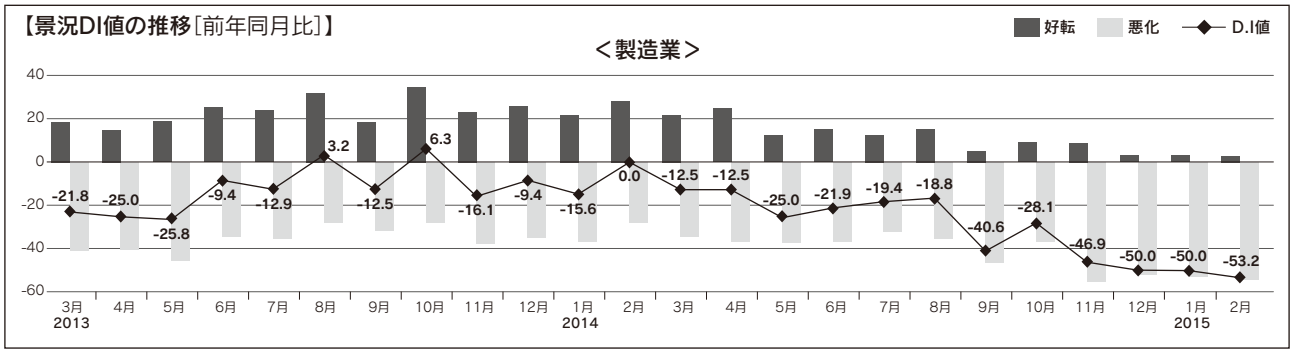
※DI値とは、Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で、増加（好転）したとする企業割合から、減少（悪化）したとする企業割合を差し引いた値です。

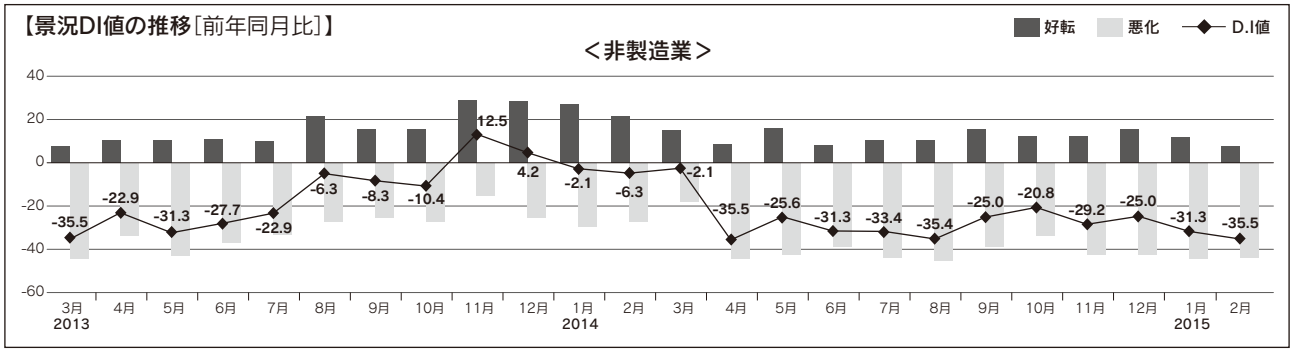
【業 界 の 声】 ～製 造 業～

（回答数：32名　回答率：100%）

食料品（豆腐）	前年同月比で売上が微減した。なお、燃料価格の下落により、配送コストや燃料コストは低下したが、原材料費の高止まりの影響により、前年同月比で収益状況は悪化しており、景況の改善を実感できていない。
繊維製品	紳士服は、前年同月比で横這いに推移した。一方、婦人服は、ロット数の多い定番リピート商品の受注増等により、前年同月比で売上が増加した。
木材・木製品（一般製材）	原木在庫量は、15,821㎥（前月12,957㎥）で前月比2,864㎥の増加、製品販売量は2,705㎥（同3,154㎥）で前月比449㎥の減少となった。なお、新築住宅戸数が減少傾向となっており、市況が好転する兆しは見られていない。また、商社から製品販売単価3,000円／㎥の引き下げ要請があり、収益状況の悪化が懸念される。
印　刷	依然として需要の低迷が続いており、年度末の需要期でも動きは鈍い状況となっている。また、低価格の受注状況を改善できておらず、更に諸材料等の価格が高止まりしているため、経営を圧迫している。（中央地区）
窯業・土石（生コンクリート）	2月の出荷数量は、前年同月比で83.0%と低調に推移した。また、今年度は本荘由利地区の工事が大幅に減少（前年同月比40.4%）したため、平成26年4月～平成27年2月の出荷数量の累計は、前年比97.6%となった。なお、平成27年度の秋田県内の出荷数量は、770,000㎥（前年比96.1%）前後になると予測している。
鉄鋼・金属（鉄鋼）	2月は、季節的要因により新規発注物件が減少し、稼働率は前年同月比で下回っている状況となっている。なお、来月以降は発注物件が増加することに期待したい。
一般機械	当面の受注量は確保しているが、今後の先行きは不透明である。また、依然として原材料価格が高止まりしているため、収益状況の改善には至っていない状況となっている。
その他の製造業（漆器）	展示会等への出展や体験教室の開催等により、川連漆器伝統工芸館への客足、来館者数が伸びたため、前年同月比で売上が増加した。しかし、前年比で売上が減少しているため、異動等が活発になる来月は、記念品の販売等で売上増加を図っていきたい。







【業 界 の 声】 ～非 製 造 業～

（回答数：48名　回答率：100%）

卸売業 （商業卸）	包装資材や日用雑貨、文房具事務機器関係、酒類卸関係の引き合いが減少したため、前年同月比で売上が伸び悩んだ。
小売業 （石油）	ガソリンは1ℓあたり133円40銭で前月比5円40銭の値下がりとなった。軽油は1ℓあたり118円60銭で前月比6円30銭の値下がり、また、配達灯油も18ℓで1,435円と前月比92円の値下がりとなったが、週別比では26週ぶりの値上がりとなった。なお、今後は値上がり傾向が続くことが予測される。
商店街	2月は、生花販売業と身の回り品は前年同月比で売上が減少した。一方、酒類販売業は地酒の販売が好調だったため、前年同月比で売上が増加した。なお、家電小売業は、前年同月比で売上が横這いに推移した。（秋田市）
サービス業 （旅行）	国内旅行は積雪量が少なく、建設業者の方々が個人旅行を多く利用したこと等から、前月に引き続き売上が増加し、前年同月比117.7%と堅調に推移した。一方、海外旅行の売上は、前年同月比98%となった。なお、個人旅行等の低価格商品は売上が好調だが、団体旅行等の高額商品の売れ行きは低調なため、利益率が低い状況となっている。
建設業 （電気工事）	一般住宅工事の状況は、新築、リフォームともに動きが悪かった。一方、建築物件や太陽光発電設備資材は需要増となり多忙であった。なお、依然として電気工不足が改善されていない状況となっている。
運輸業 （トラック）	2月の輸送量は、前年同月比で売上が横這いに推移した。なお、燃料価格の下落により収益が前年同月比で10%増加したが、燃料価格が値上がり傾向になっているため、来月以降は収益の減少が見込まれている。（県南地区）
その他の非製造業 （砂利採取）	2月は大雪の影響が落ち着いたが、工事等の発注が少ないため骨材の荷動きが鈍い状況となっている。（県南地区）

※今月から「景況レポート」をリニューアルしました。「景況DI値」について、「業界全体」、「製造業」、「非製造業」に分け、それぞれの推移についてグラフで示します。